

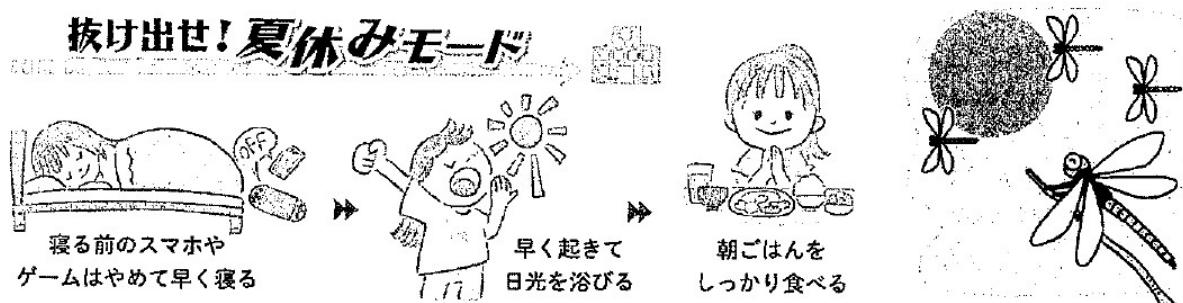


愛川東中学校  
保健室  
No. 7  
2025.8.29

長い夏休みも終わり、学校生活が始まりました。夏休みの間に、生活のリズムが乱れてしまったという人はいませんか？

崩れてしまった生活リズムを取り戻すポイントは、**早起き早寝！（まずは早起きから）**

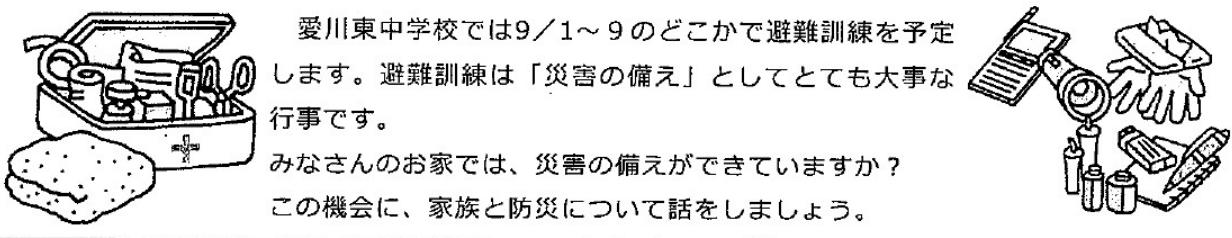
日中はまだ真夏のような厳しい残暑の日もありますが、季節は確実に移り変わっています。みなさんも、夏休みモードから学校モードの生活リズムにしっかり切り替え、充実した2学期を送りましょう！



倒れている人や大けがをしている人を見つけたら、あなたはどうしますか？心臓停止後は約3分、呼吸停止後は約10分、多量出血では約30分が経過すると、死亡率は約50%になるといわれており、できるだけ早く適切な処置をとることが大切な命を救うことにつながります。



もし、そのような場面に遭遇したら、救急車や助けを呼んだり手当を手伝ったりなど、できそうなことをぜひ積極的に行ってほしいと思います。また、災害時には中学生は救助者となることが期待されています。実際東日本大震災では、中学生が小学生やお年寄りを避難誘導して多くの人が助かりました。「釜石の奇跡」といわれています。（裏面）



## R レスト…安静

ケガをしたところを安静にします。  
無理に動かしたり、  
体重をかけたりすると、  
ケガが悪化することがあります。



## 応急手当の基本を覚えておこう

## R

## I

## C

## E

## C コンプレッション…圧迫

出血や腫れを防ぐために、弾性包帯やテーピングで、軽く圧迫するように巻きます。



圧迫が強すぎないか時々チェック。  
指先の色やしづれがないかをみます

## E エレベーション…挙上

ケガをしたところを心臓より高く挙げます。内出血を防ぎ、痛みをやわらげます。



応急手当は治療ではありません。専門医にきちんとみてもらいましょう

## 『子どもたちはこうして逃げた！』～釜石東中学校の生徒たちの行動～

2011年3月11日午後2時46分、約5分間に至る激しい揺れが続いた。教頭先生が校内放送で避難を呼びかけようとしたが、停電で音が流れない。しかし、部活動をしていた中学生は、すでに揺れている最中から自らの意志で校庭をかけ出し、隣の鵜住居小学校に向かって「津波だ。逃げるぞ！」と、大声で叫んでいた。児童たちは当初、小学校の3階に避難していたが、日頃から中学生と一緒に避難訓練を重ねていたので、その声を聞いて一斉に校舎を飛び出し、中学生と合流して避難を始めたのである。そして彼らはあらかじめ指定してあった避難所にたどり着いた。

しかし、避難所のわきにある崖は崩れかけており、海へ目をやると津波が防波堤に当たつて激しい水しぶきを上げている。この様子を見たある男子生徒が「先生、ここじゃダメだ」と言って、さらにその先にある施設へと移ることを提案。無事全員が移動し終えたわずか30秒後、最初にいた避難所は津波にさらわれることになった。当初、学校は津波につからないものとされてきたが、校舎の3階に車がささっているほどなので、屋上まで冠水したことは疑いない。

このことから、もし、想定にとらわれて、学校や最初の避難所にとどまっていたとしたら、命を守ることはできなかつたということになる。